

街のコミュニティスペースへ

こどもたちのための八百屋

イクメンやイクタンなど、子育てに参加する男性が注目される昨今、働く女性の育児休暇も一昔前に比べれば取得しやすくなってきた。とはいえ、女性への負担はまだまだ多い。

このような中で子育てママやこれから母親になるプレママを応援する八百屋が東京港区にオープンした。そ

の名称「こどもたちのやおやさんTanTan」だ。無農薬・無化学肥料栽培の野菜にこだわった、産直野菜を販売している。

同店は、都営浅草線の高輪台駅からほど近く、大学や高校も多い古くからの住宅街にある。品川にも近く、最近ではタワー・マンションも建設され若い夫婦にも人

気のエリアだ。

「子どもに限らず、無農薬の野菜を食べると元気になるも増やしたい。この辺りには高齢の方も多いため、高年齢の方も多いため、野菜を介して、多くの人が出会う場所になったらと思

います」と、話すのはオーナーの上野与志仁・真美さん夫婦。取り扱っている野菜は、主



オープンして2か月だが、すでに1週間分をまとめて購入するお得意さんも多い

に西日本の契約農家から、毎日届く。現在、契約農家は全国に10軒ほどだが、今後

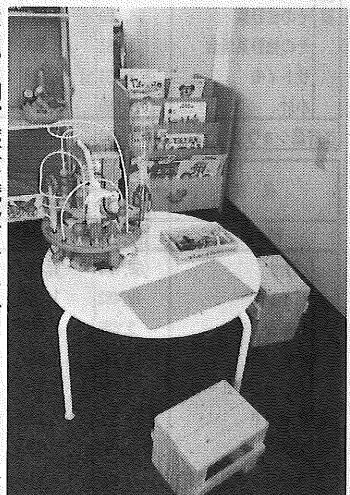
も増やしていく予定。以前、病院に勤務していた与志仁さん。その経験から食べ物の大切さを痛感したという。病気にならない

身体をつくるのは食べ物だ」という想いから、農業への関心を持つ。また、保育士兼ベビー・マタサージュ講師の真美さんは、2児の母でもある。東京出身でないご夫婦が子どもを育てる場合、気軽に相談する相手がない。病院に行くまでもないのだけれども不安…。そんな方が気軽に立ち寄れる場を作りたい…。という2人の思いを合致させたのが「こどもたちのやおやさん」だ。

店内には子ども用スペースも設け、保護者が買い物している間、絵本を読んだり絵を描いたりして遊ぶことができる。店名についている「TanTan」も、子どもが発音しやすい言葉を選んだ。もちろん、高齢者など大人も、気楽にひとやすみが出来る。

現在、オープンして2か月ほどだが、子どもだけに限らず、年配者も立ち寄り、買い物しながらのコミュニケーションを楽しみにしているという。また、少量販売や近隣への配達も行っており、坂道が多い街だけに好評だ。

また、真美さんは、プレママや子どもを持ったばかりのお母さんへ、離乳食のつくり方のアドバイスや出張ベビー・マタサージュなども行っており、評判は上々。「将来的には、親子連れを



子どものスペースの床は人工芝で、おもちゃや絵本のほか、お絵かき用のダンボールが置いてある(上) 雑貨の販売スペースはレンタルもしており、ベールなどの販売も